

同窓生シリーズ

(27)



第14回生 藤井忠生氏

昭和18年岡山県生まれ

昭和37年 本校卒業

東京大学法学部卒業

現在、第一生命保険課長。

日本サラリーマン文化芸術振興会代表幹事。

生涯の友に出会う

私が入学したのは昭和27年、日本が高度成長の八口に立ったばかりの頃、運良くもたらえた早稲会の特待金は月千円。当時の高校生には大金であり、家計まで大変動させた記憶があります。「新宿高校に行つて何が一番良かったですか。」問われれば、躊躇なく「生涯の友人を得ることができた」と、答えることができます。そのうち二人をご紹介します。二人は、その頃の新高校には、二年生で物を選び出すというおも

しろい習慣がありました。しかし私は、唯一の化学を選択するクラスに進みました。これは数学が苦手なため、三年間物理をとらずに卒業しようという魂胆なのですが、同じ思いで集まったそのクラスは、女子が20名以上いるうちに、ユニークな人物も多く、音楽・写真・絵画のクラブの部長がそろっていました。三人共、数学ではよく零点を取り、勉強の上でも強い絆で結ばれた友でした。音楽部長の磯部君は国立音大へ、写真部長の市村君は日大の写真科へ進み、それぞれプロとして『新潟県フ

結局、織田泰児という画号で絵を描きつづけ、最近『世界唯一のフラクタル』(キャンパスに塗料をたらして、それを傾けながら具象画を描く)画家というタイトルをいただいております。時々、雑誌に載つたり、「神秘! 筆を使わずに絵を描く」などとテレビに取り上げられたりしております。なので、お目にとまったことがあるかもしれません。当時、我々悪童連中はよく美術教室へ押しかけ、吉江新二先生を囲んでおしゃべりをしたものです。その時の「絵を描くのに美術大学へ行く

必要ない」との言葉が、描き続ける上で、未だに励みになっております。今も続くOBの絆 吉江先生は、戦後すぐ新宿高校に來られ、以来三十余年、数多くの生徒を指導されました。口は悪いが根は優しくて元気のいい人柄に魅かれてか、卒業生もよく集まり、多くの先輩・後輩を知ることが出来ました。その関係は今も続いており、この九月にはOB展を開催いたします。PTAの皆様も一度お出かけ下さい。ば幸いです。

心豊かに生きよう 私は今、日本サラリーマン文化芸術振興会の代表幹事をしております。この会は、平成3年に、雑誌等に「芸サラリーマン」として紹介された人達に呼びかけて、集まりを「皇居千五百周年ランナー」俳句集を

多才なOBの参加 たまたま私が提唱したこともあってか、新宿高校の同期生が5人も会員になっております。その興味一芸は「皇居千五百周年ランナー」俳句集を

ルートの下の「超売れっ子ファッションカメラマン」になるなどの活躍を見ております。私は東大へ行つたのですが、

「超売れっ子ファッションカメラマン」になるなどの活躍を見ております。私は東大へ行つたのですが、

「超売れっ子ファッションカメラマン」になるなどの活躍を見ております。私は東大へ行つたのですが、

「超売れっ子ファッションカメラマン」になるなどの活躍を見ております。私は東大へ行つたのですが、

「超売れっ子ファッションカメラマン」になるなどの活躍を見ております。私は東大へ行つたのですが、

新宿高校OB展

9月15日(金)~24日(日)の予定  
新宿セブンビル5F  
(地下鉄丸ノ内線  
御苑前すぐ)

TEL(03)3354-2641



出版「紙飛行機の名人」

「味噌作りの達人」等ですが、新聞を見て2名の先輩が「尺八の名人」「温泉付山歩き(山登りではありません)」で参加。その人達も会社では、部長やモータース女性課長であったりします。母校の人材の層の厚さとユニークさを心強く思うこの頃です。月に一度は会員の交流会もしておりますので、皆様もよろしければ気軽にご参加下さい。